Willis & Willis (2007) pp. 100-111

3.書き言葉と話し言葉における TASK BASED

3.1 イントロダクション：目的を持った読み

■私たちが文章を読む時には，興味のあるものや知りたいことのために読む。（例：新聞記事，雑誌の記事）→他者の意見を知りたい時や純粋な好奇心を持った時。リスニングも同様。（例：ニュース番組、ラジオ、テレビ，講義）

■教室内においては，目的を欠いたリーディングやリスニングになってしまう恐れがある。→タスクを課すことでそれらに文脈を与え，実際の目的や問題を与え、意味に焦点を与える。

■本章では書き言葉による文章を用い，それらを繰り返し使うことで学習者に親しませる方法を考える。個々のテクニックはすでにスキル練習としてお馴染みのものだが，その配列や配置が違いを生み出す。また、話し言葉の文章にもこの考えを適用してみる。

3.2　ディスカッションタスク(Discussion tasks)

■第１章(I.4)で紹介した「危険な薬物」についての意見調査タスクは、このタスク配列の一部である。意見調査タスクに基づいたディスカッションは，それぞれの生徒の参加を促し，興味を与え，読む理由を与える。例えば①個人の意見調査後に各グループに２つの意見を与え，それらに対する賛否を議論させる。②グループ間でその意見を比較する。同様のライティング活動に発展するかもしれない。

■このタスクは、議論の生じるトピックに関する文章に導くよい方法である。（タスクによってその導く方向が異なる。）

3.3　予想タスク(Prediction tasks)

Stage I　予想のための準備

■このタスクは特に物語文に向いている。それは，ヘッドラインやタイトルを見ると内容を想像したり，疑問を持ったりするからである。予言タスクの設定により，学習者にその文脈を与え，リーディング処理を補助する。教師はリーディング準備段階として繰り返しこのタスクを含めるが，これを明確化することはリーディングそのものと同じくらい重要なものである。

■予想タスク配列の例を提示する。（別紙 WS）実際のリーディング過程においても「何がどのように起こり得る」のか推測することから始まる。

１）生徒は何が起きたのかをペアになって考える。（パラシュートを付けていた，ロープで降りた等）

２）クラス全体で，それぞれの考えを共有する。（生徒の説明は言語資源が豊富であり，コミュニケーションに役立つ。教師が援助することで生き生きとした楽しい活動となる。この時点でどれが正しい答えなのかは伏せておく。）

Stage II　予想タスク

この種のタスクには，実際にあるような，様々な思いを巡らせるディスカッションを含んでいる。（例のように）本文からいくつかの語を取り出してもよいし，最初の２文ないしテキストの冒頭と結末の文だけを取り出して示してもよい。気をつけるべき点を次に示しておく。

・　**タスクが実行可能なものであること。**十分なヒントを与えるとともに，問題に対して許容でき

る答えを考え出す機会を与えること。

- **次に続く授業を調整するための準備をすること。**ヒントを与えすぎると挑戦する余地がなくなる（足りないときは次回調整）。初めて行うテキストの場合は，与えすぎぐらいのほうが良い（生徒のフラストレーションがたまるため，タスクを実行できなくなる）。
- **生徒に与えるヒント(Clue)に変化をもたせる**（前に示したような例や、与える語の数など）。

■生徒に課すことに変化をもたる。（例）疑問に思ったことについて５つ質問を作る。タスクの要求を変えることでヒントを変える。例えば Stage Ⅰのタスクにおけるフレーズを減らし，質問する余地を作るなど。
■この段階でもっとも大切なことは，意味に焦点を当てた言語使用を含めることである。学習者は全ての言語材料を組み合わせて物語にしたり質問を作ったりする。教師はタスクを与えることで準備と教授の機会を作り出す。生徒は後に文章中で見るフレーズに触れ，教師はフレーズを通じて，トピックの紹介と文章中の語彙的な困難さへ向けた準備をさせる。後から文中でそれらの語を見る時には，すでに生徒の注意が向いているのである。

Stage3　報告の準備
■この段階では，自分たちの決めた物語について代表１名がクラス全体に発表するための準備をするように，生徒に指示する。生徒はここまで起こったことを振り返り，完成版の物語を作るために考えを出し合う。全体に発表するため，生徒は Fluency と Accuracy に関心を持つ。この段階では教師は生徒の要求に応じて援助すべきである。

Stage4　報告
他のグループの内容と比較するため，2～3 グループの代表がクラス全体に自分たちの物語を発表する。このレポートそのものは、実際の世界での言語活動（この場合は storytelling）になるため、Chapter2.2 にあったような目標タスク(target task)になる。またここでは，生徒が意味だけでなく言語に焦点を当てるといった機能を持つ。

Stage5 リーディング
■この段階で生徒は物語を読む。これまでのタスクにより，生徒は物語を読み自分たちの推測が正確であったかを見つけることに，好奇心を持っている。その結果（推測の確認ないし好奇心を満たすこと）に焦点を当てている。これにより意味中心に読むことになるため、読むことが一つのタスクの中のタスクになる。
■ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ そのものは大切なものだが、比較的短時間しかかからないであろう。読みの練習と目標言語に触れる機会を与えることに加え，ここでの読みは，これまでの言語活動の根本的な理由を与える。ここでは読んだ後にその反応を求めるかもしれない。推測は全て正しかったか？一部だけだったか？また、語彙や文法が分かるように、意味を更に明らかにするために，後からタスクを再度繰り返すかもしれない。

Stage6 形式に焦点を当てる(Focus on Form)
■タスク配列の最後に来るのが Focus on form である。この文章は場所に関する表現を多数含んで

いる。(例：in New York, off the empire building, to the top floor など)
■学習者に、場所に関する表現を本文から探し，下線を引かせてみるのもよい。ここでの'took the lift to'は大切な表現である。'took the/a …to…'は公共交通機関に使えるものだが，普通は短い旅にのみ使うものであるということを指摘できる。学習者に次のフレーズに合う言葉をいくつ考えられるか問いにすることも出来る。

I took the …from…to…

■この文章での最も興味深い文法的特徴は，再帰表現である。再帰が再帰強調や特定のために使われている例として，'Jim Burney himself' という箇所がある。再帰代名詞が直接目的語として使われた 3 つの例として，① 'to kill himself'，② 'threw himself off'，③ 'found himself on a narrow edge' がある。③は最もよく見られる使い方である。非直接目的語として用いられている例としては 'I poured myself a stiff drink' がある。生徒に本文から-self のつく語を調べさせ，再帰についての文法書の問題などを紹介しても良い。既習の再帰に関する文章を見ることに繋がるかもしれない。

Stage 7 評価
■それぞれの段階での生徒の反応を観察する。予言タスクはどのくらいの時間がかかったのか、本当のディスカッションを行っていたのか，母語の使用が多すぎなかったか，storytelling はうまくいったか，またそれ以外の項目についても，その答えを見つける。これらの情報はこのタスクを再度行う価値があるかを決める助けになるであろうし，またそうであるならば他の教室においても更なる応用が可能になる。
■生徒に感想を書かせることも良い。予言タスクは難しかったか、援助の量は適切であったか，この話は好きだったか，読む前にもっと語彙に関する援助が必要だったか，言語材料は有益であったか，などのうちいくつかの質問を生徒に問いかけ，グループディスカッションと評価の援助としても良い。これらの評価とディスカッションは少なくとも以下のような 3 つの機能を持つ。
①この話し合いには意味に焦点を当てた言語使用を含むため，学習者にとって有益である。
②タスクの将来的な使用のための調整に役立つ。
③学習者をディスカッションに含めそれらに注意することで，彼らの意欲を高揚させる。

[発表者コメント]
今回の担当箇所では，リーディングを中心とした Task based の考え方に基づき段階を追って一つの展開例になっていました。日本の高等学校においてはリーディングを中心とした教材が多いと思いますが，今回のような展開例であれば応用が十分可能な形であると感じました。
日ごろ学校での授業実践において困難さを感じるのは，教科書などの教材をもとに 1 つずつ自らタスクを考えていかなければならない点です。大学院に派遣してもらっている間に時間を有効活用し，タスクを使った教材を作成していくと共に，同様のアイデアを持った先生方（学生のみなさん）と教材や情報の共有をしていけると良いのではないかと思います。

Stage I: Priming for prediction

これはニューヨークで一番高い建物の一つである Empire State Building から飛び降りたある男についての新聞記事のヘッドラインです。

Hello, I've just jumped off the Empire State Building

Empire State building から飛び降りた人が, どうして生きていてこんな話が出来るのでしょうか。グループでその説明を出来るだけたくさん考えてみましょう。説明のための絵を描いてもよいです。

Stage II: Prediction Task

次の語はその新聞記事から取り出したものです。記事に出てくる順と同じように並んでいます。

All alone in New York---decided to kill himself---the 86th floor---held on to the safety fence---over 1,000 feet below---a narrow ledge---the offices of a television station---the strong wind---poured myself a stiff drink---a great Christmas

Stage III: Preparing for report

グループで協力して，何が起こったかを決めてみましょう。出来るだけたくさんの Clue（上にある情報）を含められるようにしましょう。

Stage IV: Report

代表の人が全体に発表できるように，グループで作った話をまとめてみましょう。

Stage V: Reading

下の物語を読み，自分たちの作った物語と比べてみましょう。
（P.39 本文を参照）

Stage VI: Focus on Form

① 本文から場所に関する表現を探して下線を引いてみましょう。

② took the lift to という表現を見つけて○で囲んでみましょう。

Took the/a…to…という表現はどんなときに使うのでしょうか？

( )

I took the…from…to…という表現を使って出来るだけたくさんの文を考えて見ましょう。

a) I took the train from( ) to ( ).

b) I took the ( ) from ( ) to ( ).

c) I took the ( ).

d) I _____.

③ 本文から–self の付く語を探し，□で囲んでみましょう。

④ –self の使い方には 2 種類あります。文法参考書で調べ，③で囲んだものがそれらのどちらに当たるのか考えてみましょう。

Stage VII: Evaluation

今回のタスク活動について質問します。該当する箇所に○を付けてください。

① 予言タスク（StageI～IV）の難易度はどうでしたか。

（あ）難しかった　（い）ちょうど良かった　（う）簡単だった

② 予言タスク（StageI～IV）全体を通して，援助の量は適切でしたか。

（あ）少なかった　（い）ちょうど良かった　（う）多すぎた

③ StageV で物語を読むまでに単語の意味は十分にわかりましたか。

（あ）あまりわからなかった　（い）大体わかった　（う）全てわかった

④ 今回の話は好きでしたか。

（あ）好きではなかった・面白くなかった　（い）まあまあだった　（う）とても面白かった

⑤ Focus on Form の表現はためになりましたか。

（あ）ためにならなかった　（い）少しためになった　（う）とてもためになった

５.トピックからタスクへ：

matching, comparing, problem-solving, projects, storytelling（後半）

筑波大学教育研究科英語コース　矢野　賢

5.5 プロジェクトと創造的なタスク(pp.99-)

□問題への解決方法を探る problem solving タスクと同様のデザイン過程がプロジェクトにおいて

も使うことができる。

□task-based プロジェクト
-特定の１トピックに対する一連のタスクで構成。各タスクに個別の目標、目的がある。
-最終的にはそれらが、何らかの形で公にすることで他社に理解され得る特定の作品となる。
-作品例としてポスター、リーフレット、クラス新聞等がある（その他 Figure 5.2 に 考えられる作品例が示されている）

□プロジェクトは普通共同作業（ペアや３，４人のグループ）を基本とするが，個人でも実施できる。個人プロジェクトはプロジェクトから派生した授業の合間の時間に個人レベルでリサーチを行い、各段階を準備するため，タスク配列に比べ長期にわたる。

□プロジェクトは教室を基本とするが、外部からの専門家や情報提供者によって充実する。
例１）「応急処置プロジェクト」に看護婦を招いて質問や確認をする
例２）「英語新聞製作プロジェクト」に新聞記者を招いてインタビューの方法を教えてもらう

□生徒が教室外に行き，データを集めることも出来る。
例３）グループで校外に行き，旅行者が興味を持ちそうな場所について調べる
教室に戻り教師の援助を受けながら英語でリーフレットを作り，観光旅行者へ提示

□更に発展的なプロジェクト
例４）キューバに関する二つの異なった視点
１）ラジオプログラムについて学ぶ（明確さ，正確さ，簡潔さ，声の使い方，言語形式等）
２）インタビューの原稿を読む
３）Castro へのインタビューの入ったドキュメンタリー番組を見る
４）グループごとに最も良かったインタビュー質問を５つ選び，ドキュメンタリーからその質問に答える
５）番組の原稿を書き，矛盾した質問を含める。
例) “If Castro is a dictator and Cuba is so poor how can you account for the high level of literacy and medical benefits?”
６）スタジオにて番組を録音し、DVD に収め，website に載せる。

-授業時間には説明，重要事項のまとめ，全体または小グループによるディスカッション、language focus，ラジオ番組の草案修正などに費やした。
-９人の生徒を３グループに分けて実施。「授業と実際の世界との接点を持つことが出来た」など生徒の評価は高かった。
-都市，観光地，web 環境等を生かし Native Speaker へのインタビューを含める事が可能
（Appendix2.2 に同様のラジオ番組プロジェクトの例あり）

□地域の外国人に毎週エピソードをインタビューしホームページにアップする活動例が紹介されて

いる。この活動では copyright について確認する必要がある。

□英語力が低い場合は，母語でインタビューをして教室で英語に直し、口頭でレポートするのも良い。（Appendix 2.1 参照)

□地域のビジネス（美容室，車販売，工場等）を見学し，そのビジネスのプロセスや工程など，各自が学んだことついて比較させた例。この例では母語でその情報収集し，最終的に英語によるレポートで出来上がったものを評価した。(Sweeney, 2004 を参照)

□生徒がこれらのプロジェクトで前向きになるのは，新しい人を知り，異なった学習環境，異なった視点を得ることに加え，ラジオ番組制作やウェブサイトの設定などの生活スキルを身につけることが出来るからである。

□web ベースのプロジェクトもある。(Appendix 5)

□様々なプロジェクトを紹介している web サイト（ http://theconsultants-e.com/webquests/ ）の例では生徒への指示，リサーチ用のリンク,評価手順などが示されている。プロジェクトの計画には時間がかかるので、このようなサイトは有用である。

5.6 個人的な経験のシェア：storytelling，逸話,回想

□我々の日常生活では,個人的な経験を述べたりすることが多い。(例．経験に基づいたアドバイス）同じ話を再度する時には，更に上手に話そうとする。英語話者と社交する際にこのスキルは大切であり，人々の楽しみや我々の社会経験を豊かにする。教室でもこれは同様。

□これまでに紹介したタスク(3.2, 3,7.3 等)も storytelling の要素を含んでいる。よく使われる例としては,「一番記憶に残っている子供のころの思い出」,「最も恐ろしい経験」,「最も恥ずかしかった話」などが挙げられる。

□イタリアでの実践例「何か興奮する／恐ろしい／特別なことが起ったときの逸話を書く」

①アイデアを家で考えてくる
②語彙についての質問，リハーサル
③パートナーに話をする
④個人的な振り返りと質問
⑤retell の準備
⑥パートナーを変えて retell する
⑦構成の分析、教科書の二つの類似した逸話の比較（事前の文法学習にて使用したもの）
⑧video clip をみて物語を書く(グループまたは全体)
⑨自分の物語を家で書いてくる
⑩次の授業で他の生徒の物語を読む（２～３人分）

□「動物とペットについて話す」

1．下地づくり

黒板に質問を書いておく(好きな動物は？／ペットを飼ったことはあるか？／その性格を表すと？／ペットにまつわる面白い経験はあるか，など） 生徒は個別に準備する。

2．タスク

①ペットについて 2,3 回とペアで話す。メモをとっても良い。（8-10 分毎）

②最後の会話についてレポートする（ペアで協力して準備）。その文法や使用語句についても話す。出来るだけ詳しく書くように促す。

③教師がそれらのレポートを読み，訂正して書き直す。アウトプットを push することが大切。例）「犬が散歩に行きたがらない」―「なぜ？」「どうやってそれが分かったか」等

3．ポストタスク

語彙についての宿題として，動物の描写と性格の特長について課題を出す。次週は人の性格についての単元を学習。

評価：会話からは笑いやたくさんの英語が聞こえ，盛り上がった。タスクを繰り返すにつれ，言葉遊びや risk-taking がみられた。作品は非常に面白いものがたくさんあり，限界まで言葉を使おうとしている様子が見られた。

□それぞれのタスクにおける配列の違いや Form Focus している点は異なるが，いずれの場合も生徒（そして教師）が互いの話やレポートを楽しんでいる。

5.7 'Task generator'を使ったタスクタイプのまとめ

□これまで２章にわたって紹介してきたタスクの分類を視覚的表象を用いてまとめた。(pp.Figure5.3) これらは互いに重複する部分もある。

□これら７つ全てを使うのではなく，適切な３～４つを選んで繋ぎ合わせると良い。また、トピックによって組み合わせられるタスクとそうでないものがあるため，これまでの例を参考にして考えると良い。それぞれのタスクにあわせた例が更に示されている。（pp.99-100）

5.8 Review

□これまでの２章において，トピックからさまざまなタスクをデザインすることについて考えてきた。学習者の視点では易→難という配列の利点は明らかである。一度トピックに一致するとその関連語彙に馴染むことができるため，続くタスクに参加し易くなる。また、繰り返し語句を使用することで新しい表現を身に着ける。

□ 次章では学習者の言語使用を刺激付ける，タスクサイクルの段階について見ていく。また，タスク配列の最後における form focus のための活動についても見ていく。

感想

本章ではプロジェクトとストーリーテリングについて記されていた。これらのタスクはここに書かれているように，生徒の学習動機を高め，意味に焦点を当てた活動に繋がるものであるが、実際の指導においてはフォームに焦点を当てることに困難を感じることが多かった。Focus on form **は，計画的にタスクシーケンスに織り込んでいくことによって可能になるものであると思うが，検定教科書のトピックを中心にしながら自分で計画を立てるには十分な時間を要する。このような考えを取り入れた既存の教科書があると嬉しい。**